

やきもの散歩道

常滑焼は 1000 年以上にわたって受け継がれ、常滑市の歴史、経済、社会的基盤を形成してきた。この常滑市の遺産について知るには、2 種類のコースがある「やきもの散歩道」を歩くのが一番だ。全長 1.6 キロの A コースは常滑市の代表的な観光スポットを巡り、B コースは全長 4 キロで常滑市の焼きものの歴史を詳しく紹介する。どちらのコースも、常滑の焼き物の展示や観光案内がある、常滑市陶磁器会館からスタートする。

やきもの散歩道は保存状態の良い民家や窯元が多く残る栄町地区を中心としている。細く曲がりくねった道は昔ながらの雰囲気を残し、史跡に繋がる。住民たちは、通りや庭を常滑焼で飾ることでこの地域の魅力を高め、新しい世代の職人や起業家たちは、コース沿いの空き家を陶芸工房やアートギャラリー、カフェに変身させた。

やきもの散歩道は 1972 年にスタートし、歴史的町並みの保存と常滑の観光地化に貢献してきた。所要時間の目安は、A コースが 1 時間程度、B コースが 2 時間半程度だが、観光客の多くは見所を十分に楽しむためそれ以上の時間をかける。

A コース（1.6 キロ）

廻船問屋 瀧田家

瀧田家は裕福な廻船問屋であった。1850 年に建てられた旧宅には、当時の家具、陶器、漆器に加え、常滑市の海運の歴史などの資料が展示されている。

土管坂

なだらかな坂道が続くこの通りは、やきもの散歩道の最も象徴的なスポットのひとつである。常滑焼は革新的な用途に使われ、壁や舗装の一部を形成している。散歩道の片側には 1870 年代に製造された給排水用の陶製土管が、反対側には 1960 年頃の焼酎瓶が並ぶ。土管を作る過程でできる廃材の輪は、歩行者が滑らないように路面に埋め込まれている。

登窯（陶榮窯）

この煉瓦造りの印象的な窯は、常滑市に現存する最後の登窯であり、日本最大級のものだ。1887 年から 1974 年まで稼働していて、8 つの焼成室と高さの異なる 10 本の煙突により、窯内の温度を均一に保つことができる。

登窯広場

レンガ造りの登窯（陶榮窯）に隣接する広場。主な見どころは 2 階建ての建物内にあり、1

階には 19 世紀初頭の窯、2 階は展示スペースと工房になっている。屋外には、色鮮やかな現代陶芸の大きな作品が 2 つある。

レンガ造りの煙突

1950 年代の生産最盛期には、常滑には 300 本以上のレンガ造りの煙突があり、現存する煙突は市を象徴するランドマークの一つとなっている。約 100 本が保存され、散歩道の目玉となっている。

B コース (4 キロ)

INAX ライブミュージアム

常滑のやきもの文化を紹介する 6 つの体験型パビリオンからなる広大な複合施設。

- ・ 窯のある広場には、陶管を製造していた大正 10 年（1921 年）の窯が保存されている。
- ・ 世界のタイル博物館は、世界の装飾タイルを展示している。
- ・ 建築陶器のはじまり館では、日本の建築物のテラコッタ作品を展示している。
- ・ 土・どろんこ館では、陶器の原料を見学することができる。
- ・ 陶楽工房では、タイル絵付けなどの工芸体験ができる。
- ・ やきもの工房は歴史的建造物の修復から、革新的な陶磁器技術や製品の開発まで行う。

とこなめ陶の森

多くを学べる歴史資料館、研究所、若手陶芸家育成工房が一体となった文化施設。常滑焼の窯元が何世紀にもわたって作り続けてきた逸品を、詳細な英語表記とともに見ることができる。